

特集Ⅱ

特集 花粉症・アレルギー対応商材

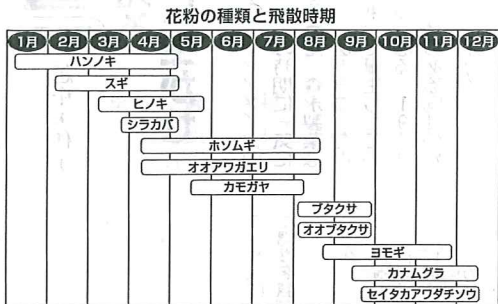
西日本の一部では 昨年の3倍の飛散量

アレルギー症状で悩む人の数は年々増加している。その中でも気になるのはこの時期から本格化する花粉飛散量だ。環境省によると今年も昨年に比べ、西日本の一部でスギ花粉が昨年の3倍になる地域があるようだ。それに加え、今年は、ヒノキ花粉が大量に飛び交うことも予測されている。アレルギー対応商品は近年、医薬品やマスク、メガネなどの関連商材が充実。ここに健食がどう役に立つか、またそれらの製品と共存できるのか。今年の商戦に期待がかかる。

一昨年11月に第三者機関「環境・生活習慣型アレルギーケアフォーラム」が設立された。同フォーラムはアレルギーを現代における新しい環境・生活習慣病としての視点から捉え、予防や対策の考え方について、広く検討、情報発信をしていくことを目的としている。

アレルギーには、一時的な対症療法だけでなく、環境(ハウス)や食事などの生活習慣の改善による年間を通じた予防・対策を必要としている。昨年11月13日に東京・六本木でマスコミ向け第2回セミナーが行われた。この中にはアレルギーに関する専門家が「環境的要因」「発症メカニズム」など、ご自身のテーマで各登壇者が解説した。

その中で千葉大学大学院の岡本美孝氏が「スギ花粉症に対する乳酸菌への期待」と題して具体的な素材を例に研究報告を行った。



ヒノキがスギを上回ることも予想 5月末までシーズン継続へ

た。このセミナーで唯一、具体的な素材名があげられ、研究報告をされたのが乳酸菌であった。

アレルギー症状として最も代表的な存在として花粉症があるが、ここ数年、花粉症向け健食用素材では乳酸菌の人氣が高い。主要サプライヤーの話では乳酸菌菌体の供給量は伸長しているという。たとえば、コンビのE.C.12は対前年比5%増、森永乳業も伸びているようだ。いずれも抗アレルギーでデータを取得している。

このほか、シソ、甜菜、ビーポーレンといった定番素材は安定的に供給。フロアントシアニジンの多い素材、たとえば、ブドウ種子エキスを効果果物とされる。

最近では、抗ヒスタミン系のアレルギー症状を抑える商材でも、免疫

原料/各社動向

東方を調節しアレルギー反応を抑えるまたは体質を改善することでアレルギー症状を根本からなくすといった提案が増えているようだ。

一方、環境省が発表した今春のスギ花粉の飛散量予測によると、昨年春と比べ、東北や関東の

東部は昨年よりも少ないとされるが、関東の西部は1.5倍、近畿や四国地方の一部では3倍になるエリアも予測されている。また、今年の特徴としてはスギよりもヒノキ花粉が多くなることも発表された。ヒノキは飛散時期がスギと異なり、5月末まで続くため、花粉シーズンは例年に比べ、長くなりそうだ。

ヒノキ、スギへの抗体反応緩和をヒト試験で確認 シクロケム

シクロケム(神戸市中央区、☎078-3002-7003)の取り扱うαシクロデキストリンは、ヒノキ、スギなどの花粉

によるIgE抗体反応が有意に緩和されることを人臨床試験で確認している。

同素材は腸管吸収されず、腸内細胞で分解され短鎖脂肪酸となり、排泄される。この際に、腸内のデトックス効果により腸内環境を改善し、結果としてIgE低減効果もたらされることがメカニズムとして予想されている。

一般に流通しているアレルギー対応素材は腸管で吸収され、体内に作用をもたらすものが多いが、同品はその点でまったく作用が異なるため、ほかのアレルギー対応素材とも合わせやすい。